

国際交流基金アジアセンター presents
「CROSSCUT ASIA #05 ラララ♪東南アジア」ラインナップ決定
音楽をテーマに、東南アジア 6ヶ国から9プログラムを選出

国際交流基金は、10月25日（木）に開幕する第31回東京国際映画祭（Tokyo International Film Festival：以下、TIFF）で、アジア映画特集シリーズ「国際交流基金アジアセンター presents CROSSCUT ASIA」の第5弾を「ラララ♪東南アジア」のテーマで実施します。音楽をテーマに、東南アジア 6ヶ国から9プログラムを選出し、ラインナップが決定。多様な切り口で、東南アジア映画の魅力を伝えます。

会期中には各作品の監督や出演者などが来日し、上映後の Q&A やシンポジウムも予定しています。本特集をご鑑賞の方に配布する特別ブックレットのスペシャルインタビューには、4月に公開されたスティーブン・スピルバーグ監督の映画『レディ・プレイヤー1』に出演し、世界的に注目を集める森崎ウィン氏が登場。また、ラインナップの目玉である『悪魔の季節』の監督で、フィリピンの怪物的作家ラヴ・ディアスと石坂健治プログラミング・ディレクターの貴重な対談も収録します。

プログラムを楽しむ3つのポイント

- ① アジアを代表する映画人の話題作
ラヴ・ディアスのアカベラ・ロック・オペラ『悪魔の季節』など
- ② 流行の音楽を背景とした気鋭の若手監督たちのフレッシュな作品
AKB48の姉妹グループBNK48のドキュメンタリーなど
- ③ 音楽を通じてタイムトリップができる秀作
日本でもリメイクされた『サニー 永遠の仲間たち』のベトナム版、カンボジアのポピュラー音楽史を辿るドキュメンタリーと劇映画など



『悪魔の季節』（2018年 フィリピン／234分）

※作品の詳細は別紙をご参照ください。

特別予告編を公開

本特集の魅力を紹介するオンライン限定の特別予告編を公開。ピート・テオプロデュース作品『Here in My Home』の音楽にのせたメロディアスな映像にご注目ください。■URL：<https://youtu.be/Mo9bFBMGamo>

記

【特集名】 国際交流基金アジアセンター presents「CROSSCUT ASIA #05 ラララ♪東南アジア」

【主催】 国際交流基金アジアセンター、東京国際映画祭

<第31回東京国際映画祭 開催概要>

【開催期間】 2018年10月25日（木）～11月3日（土・祝）

【会場】 六本木ヒルズ、EXシアター六本木（港区）

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場（千代田区）ほか 都内の各劇場及び施設・ホールを使用

【公式サイト】 <http://www.tiff-jp.net>

【チケット発売日】※部門別での発売開始となります。

10月13日（土）12:00～アジアの未来、CROSSCUT ASIA、アジア三面鏡、企画上映

16:00～コンペティション、Japan Now、日本映画クラシックス、TIFF マスタークラス、TIFF プラス

10月14日（日）12:00～日本映画スプラッシュ、ワールド・フォーカス、ユース

16:00～特別招待作品、アワード・セレモニー＋東京グランプリ受賞作品上映、特別上映の作品

以上

国際交流基金アジアセンター presents

「CROSSCUT ASIA #05 ララ♪東南アジア」ラインナップ一覧

＜アーティストック！世界的に注目されるアジアを代表する映画人の話題作＞

	<p>＜リアルなバイブスを体感！ 鋭い若手作家たちが切り取った東南アジアの音楽シーン＞</p> <p>『めくるめく愛の詩』(2016年 インドネシア/91分) 監督：ガリン・スグロホ キャスト：チコ・ジェリコ、ペフィタ・ピアース、ノファ・エリザ</p> <p>1970～90年代インドネシアの青春 幼馴染みのルーミーとコリアの恋の顛末を1970年代から90年代まで追ひ、それぞれの時代の社会情勢を背景に盛り込んだ巨匠スグロホの佳品。70年代の部分はポップ・ミュージカルの形式が挿入される。</p>
	<p>『悪魔の季節』(2018年 フィリピン/234分) 監督/脚本/エグゼクティブ・プロデューサー/編集：ラブ・ディアス キャスト：ピオロ・パスカル、シャイーナ・マグダヤオ、ピンキー・アマダ</p> <p>怪物監督のアカペラ・ロック・オペラ 1970年代後半のマルコス独裁政権下、村で医院を開業したローリーナが失踪し、夫のヒューゴが捜索を開始する。『立ち去った女』のディアスが「ロック・オペラ」と呼ぶ4時間のアカペラ歌唱劇。ベルリン2018コンペ出品。</p>
	<p>＜ピート・テオ特集＞</p> <p>『15Malaysia』(2009年 マレーシア/80分) 監督：ホー・ユーハン、ヤスミン・アフマド、アミール・ムハマド、ライナス・チャン、リュウ・センタック、デスモンドン、カマル・サブラン、タン・チュイムイ、ウー・ミンジン、ジェームズ・リー、ベンジー&パヒール、ジョアン・ジョン、カイリル・パハール、ナム・ロン、スレイマン兄弟</p> <p>ヤスミン追悼以来の TIFF 登場 ピート・テオが企画したマレーシアの監督15人によるオムニバス作品。マレーシア社会の多様性を15の短篇がすくい取っている。注目はヤスミン・アフマド監督（『タレントタイム〜優しい歌』）の遺作となった『Chocolate』で、彼女の最後のメッセージが込められる。ジェームズ・リー、ホー・ユーハン、タン・チュイムイ、リュウ・センタックら「マレーシア新朝」の作家たちを統括したテオのリーダーシップに刮目させられる。</p> <p>【ほか上映作品】『Vote!』『Malaysia Day: Slipstream』『Here In My Home』『I Go』</p>

＜リアルなバイブスを体感！ 鋭い若手作家たちが切り取った東南アジアの音楽シーン＞

 <p>©2018 BNK48 Office & Salmon House Co., Ltd. All Right Reserved.</p>	<p>『BNK48: Girls Don't Cry』(2018年 タイ/108分) 監督/編集/撮影：ナワポン・タムロンラタナリット キャスト：BNK48 (1期生)</p> <p>AKBの姉妹グループ BNK48の活躍！ AKB48の姉妹グループとして2017年に結成されたBNK48のドキュメンタリー。メンバーへのインタビューがそれぞれの個性を浮き彫りにする。監督は『マリー・イズ・ソッピー』（13）が話題を呼んだ、ポスト・アピチャポン世代の筆頭格。</p>
 <p>©2018 GDH 559 Co., Ltd. All Rights Reserved.</p>	<p>『ブラザー・オブ・ザ・イヤー』(2018年 タイ/124分) 監督/脚本：ウィットヤー・トーンユーン キャスト：サニー・スワンメーターン、ウツサヤー・セパーバン、ニクン・バック・ホラウエーチャクン</p> <p>2PMのニクンが日本人役で出演！ 冴えない兄チュットと才媛の妹ジェーンを中心に展開する軽快なラブコメ。イサーン音楽のバンドが采菊を添え、ジェーンの日本人婚約者を韓国のアイドルグループ2PMのニクンが演じている。</p>
	<p>『リスペクト』(2017年 フィリピン/99分) 監督/エグゼクティブ・プロデューサー/脚本：トレブ・モンテラス II キャスト：アブラ、デイド・デ・ラ・パス、ルーニー</p> <p>シネマラヤ映画祭グランプリ 犯罪と貧困に困まねながらヒップホップにのめり込むハンドロックと仲間たちは、マルコス時代に傷を受けた老詩人ドクと出会い、世代を超えて詩作の力に共感あふ。ストリートのラップ合戦が見どころ！</p>

<音楽でタイムトリップ！激動の東南アジアの歴史を遡る愛と感動の秀作！>

	<p>『カンボジアの失われたロックンロール』 (2014年 アメリカ/カンボジア/107分) 監督/プロデューサー/撮影：ジョン・ピロジ キャスト：シン・シサモット、ロ・セレイソティア、バイオン・バンド</p>
 <p>@innovision Pictures</p>	<p>『音楽とともに生きて』(2018年 カンボジア/91分) 監督：ヴィサル・ソック、ケイリー・ソー キャスト：ヴァンダリス・ペム、スレイナン・チア、ソウナ・カニカ</p> <p>3つの時代、1曲の歌 クメール・ルージュ以前の平穏な時代、真つ只中の過酷な時代、そして 21 世紀。激動の現代史をカンボジアの大歌手 シン・シサモットの 1 曲でつなぎ、母から娘に祖国の魂を継承してゆく珠玉の音楽 = 物語。</p>
 <p>©2018 CJ HK ENTERTAINMENT</p>	<p>『輝ける日々に』(『サニー』ベトナム版) (2018年 ベトナム/117分) 監督：グエン・クアン・ズン キャスト：ホン・アイン、タイン・ハン、ミ・ウエン</p> <p>韓国、日本に続く「サニー」 癌とたたかうミンのもとに女子高の同級生 4 人が 20 年ぶりに集合。再会した彼女らに懐かしい思い出が甦る。韓国映画『サニー 永遠の仲間たち』を日本に続いてリメイクしたベトナム版は歌ごころに溢れたミュージカル。</p>

国際交流基金アジアセンター presents CROSSCUT ASIA

2014年にTIFFの一部門として設立された「CROSSCUT ASIA」は、アジアの国や監督、テーマなど様々な切り口でアジア映画を取り上げる部門として、今年で5回目を迎えます。東南アジアの各国をフィーチャーした#01「タイ」#02「フィリピン」#03「インドネシア」に続いて、昨年は「ネクスト！東南アジア」と題して、プリランテ・メンドーサ（フィリピン）、トラン・アン・コン（ベトナム）、アピチャポン・ウィーラセタクン（タイ）ら巨匠たちが自国の若手監督の作品を推薦する特集上映しました。

森崎ウィンさんサイン入りトートバッグなどのプレミア賞品が当たる！

プレゼントキャンペーン実施

さらに、CROSSCUT ASIA をご鑑賞の方を対象としたプレゼントキャンペーンを実施します。森崎ウィンさんのサイン入りトートバッグや本特集の特製グッズなど当たるチャンス！

また、ご鑑賞の方に配布される特別冊子には、森崎ウィンさんのインタビューを始め、細野晴臣さん、大根仁監督（『サニー 強い気持ち・強い愛』）など豪華顔ぶれによるQ&Aや作品レビューなども収録。どうぞお楽しみください。



写真：加藤健太郎



第31回東京国際映画祭映画祭のご取材には、プレスパス登録が必須となります。

プレスパスをお持ちでない場合、映画祭開催期間中のご取材はご遠慮いただいております。ご登録がまだの方は、映画祭公式サイトよりご登録頂けますようお願い申し上げます。

■最終登録締切：2018年10月18日(木)23時59分迄

<プレスパスに関してのお問い合わせ> 東京国際映画祭事務局 プレスパス担当 E-MAIL:tiff-press@tiff-jp.net

この件に関するお問い合わせ：国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp